An anime-style illustration of a young woman with short, light brown hair tied in a ponytail. She is wearing a dark grey maid-style outfit consisting of a low-cut top and a skirt. She is shown from the waist up, leaning forward and looking back over her shoulder with a slight smile. Her hands are clasped behind her back. The background is a plain, light grey color.

幸村は執事服でも  
**か**  
わい  
わい

成人向け

産地直送マグロ団

あにき…  
わたくしを  
ほんとうのいみで  
しやていに  
してください

は？

戦国時代  
主君と家臣は  
からだを重ねることで  
ほんとうのいみでの  
しんらいかんけいを  
きずいていた  
ときいます

犬千代！

吉法師！

わたくしも  
あにきのしやていとして  
あにきの  
しんらいかんけいを  
よりきようこにしたい  
しよぞんです

…なぜ突然そんな話を

いや  
そもそも  
なぜ当然のように  
オレの後ろに  
いるんだ？

？

わたくしは  
あにきのしやていですので  
そばにひかえるのは  
とうぜんかと

くっちは男キツイだ!!



やっぱりあにきは  
わたくしのことを  
しゃていとほ  
みとめてくれない  
のですね

エエ...

わたくしが  
につぼんだんじで  
なかつたばかりに

イヤ  
そんな話はしてねえ!!  
そもそも舎弟であつても  
トイレの中までついてこないだろ!!



おちつかない...

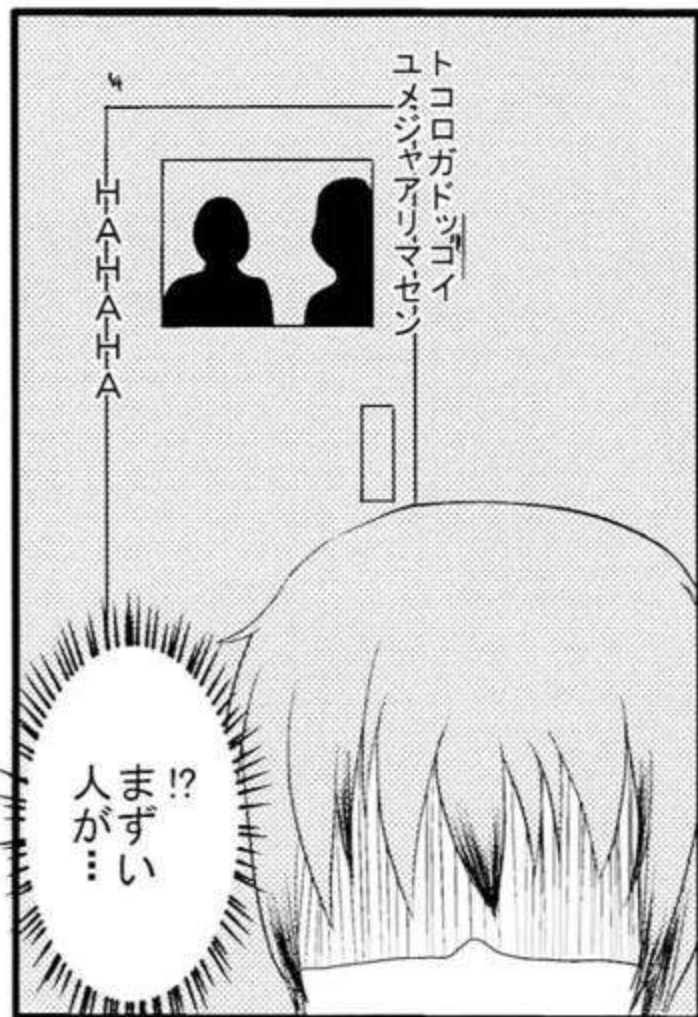
ポッ

なぜ頬を赤らめる!  
何を想像したッ?



まったく...  
頼むから外で  
待つててくれよ

落ち着かないだろ



トコロガドツゴイ  
ユメシヤアリマセン

HAHAHA

!?  
まずい  
人が...



わたくしを  
しゃていにしてください  
あにき

プチ

そいだから  
その話は後で...

おかしい...  
今日の幸村は  
確実におかしい...

幸村よ  
どうして服を脱ぐ



また変な噂が  
ながれてしまっ

こんなところを  
見られたら



すまん  
幸村

きさっ

グッ



ふっ…  
ん？

…ん



止む終えん!!

クッ



ぬあつ!!  
しまった!



我ながら  
どうしてこうなった

あ...

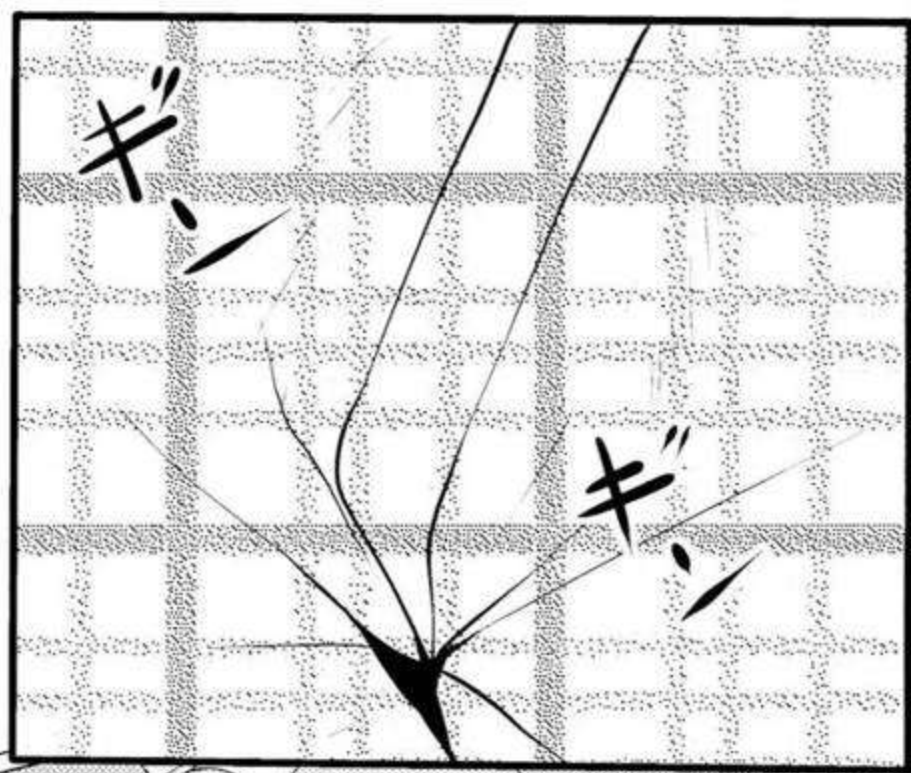
ぐ...  
手が離せない



ん...

あ...あ...き...

ふ...





ふあぁ

あにぎ...

クニ

くちゅ

くちゅ



気持ちいいです...  
あにぎ...

クニ

くちゅ  
くちゅ  
くちゅ  
くちゅ  
くちゅ

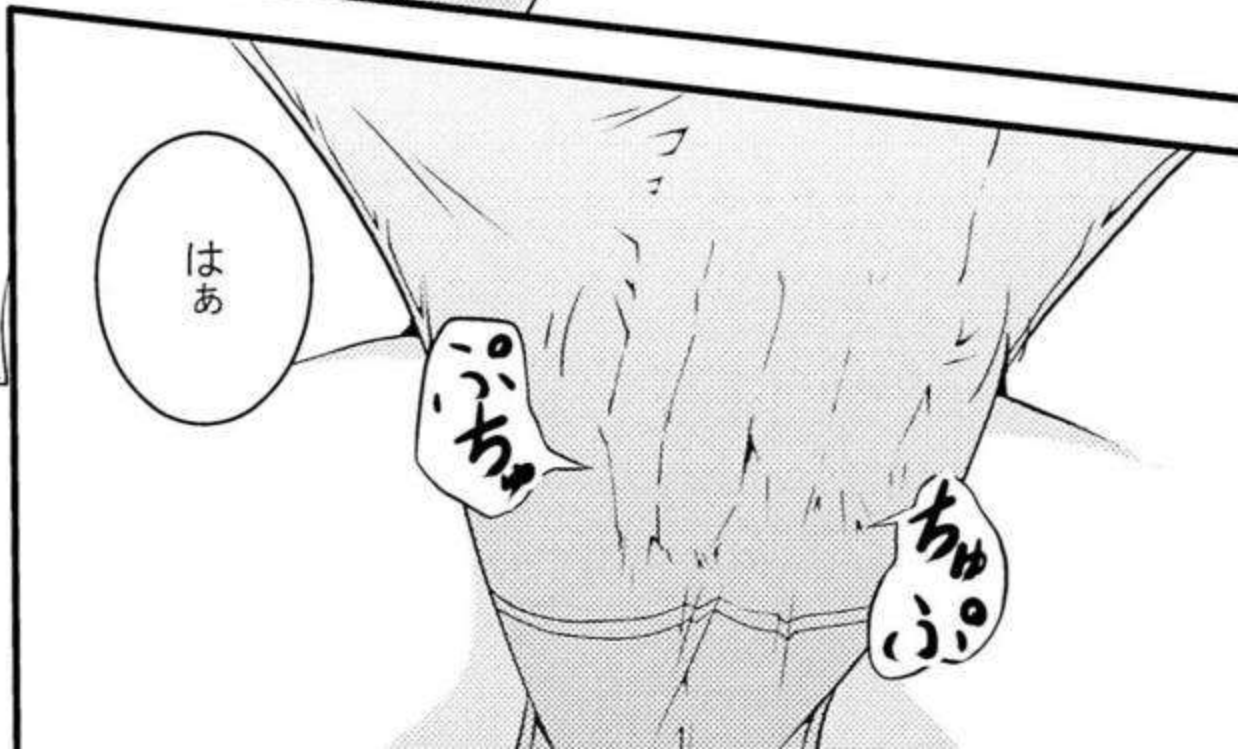


クニ

クニ

クニ

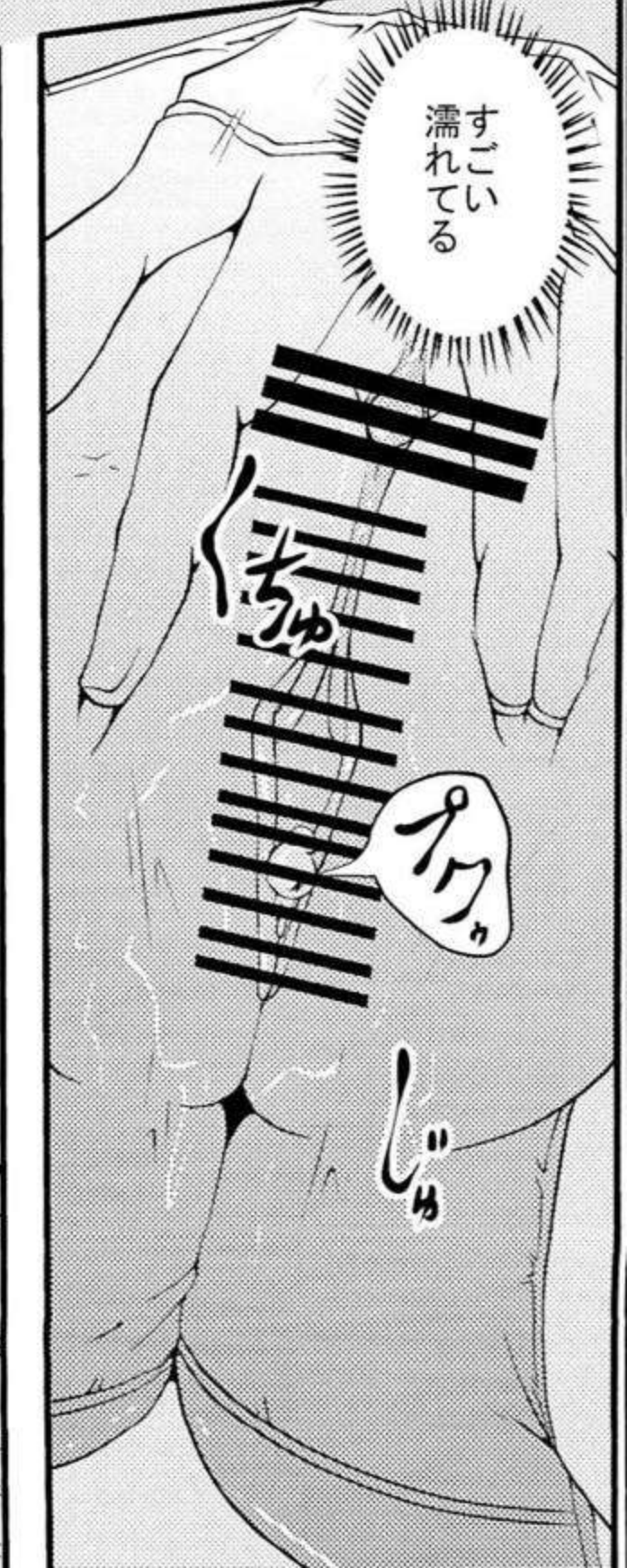
あっ



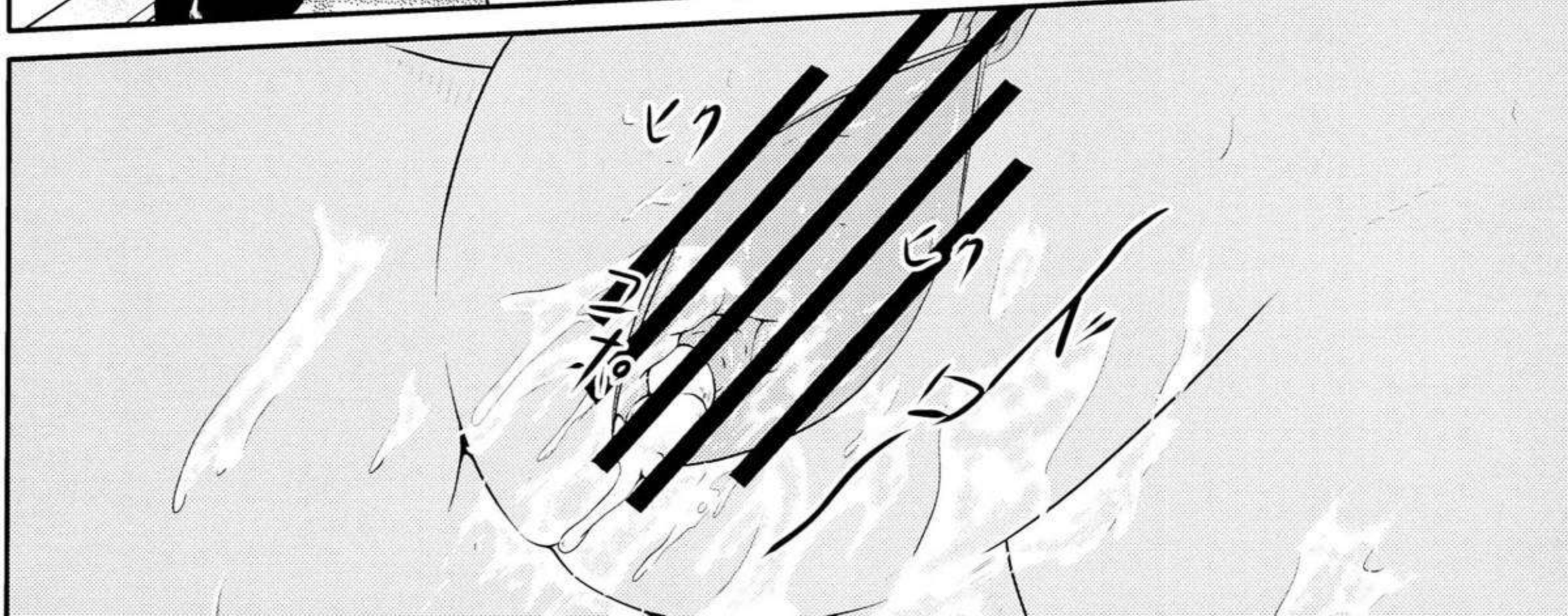
はあ

くちゅ

くちゅ









幸村の中...

あたたかいて  
気持ちいい...



わたくし  
気持ちいいですっ!!





幸村：  
オレもう…  
出るッ!!



くっ…  
もう限界だ









はあ...はあ...  
はあ...

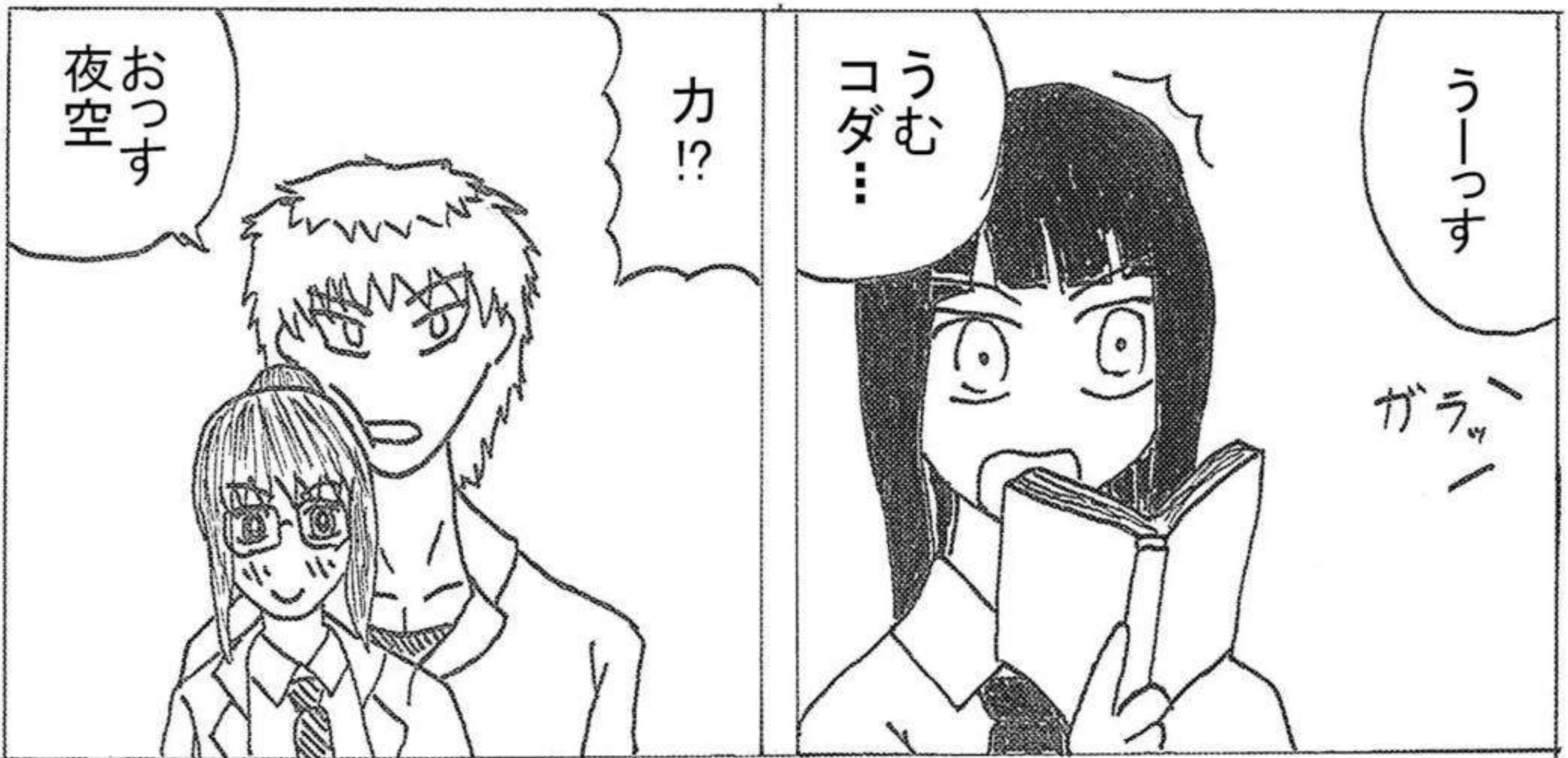




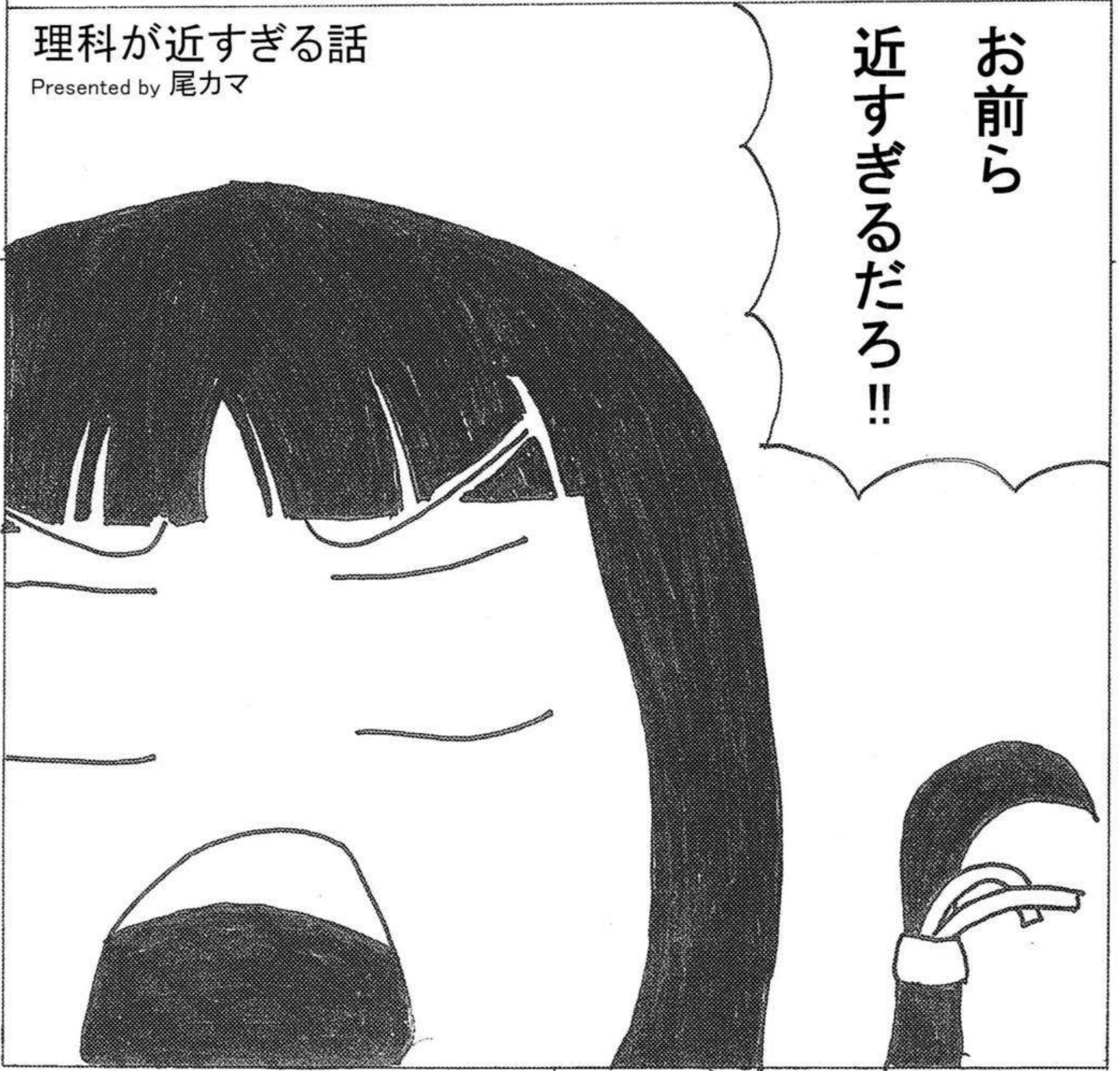
これでわたくし  
ほんとうのいみ  
あにきのしやて  
なれました

おしまい





理科が近すぎる話  
Presented by 尾カマ



そうか？

そうかも何も  
0距離じゃないか！

フフフフ：  
私が説明しましょう

とりあえず  
グリグリ止める！！

ハ〜  
ハ〜

もっと先輩と  
近づきたい  
でも…

つてわけで  
そんな薬を  
開発しました！

フ〜

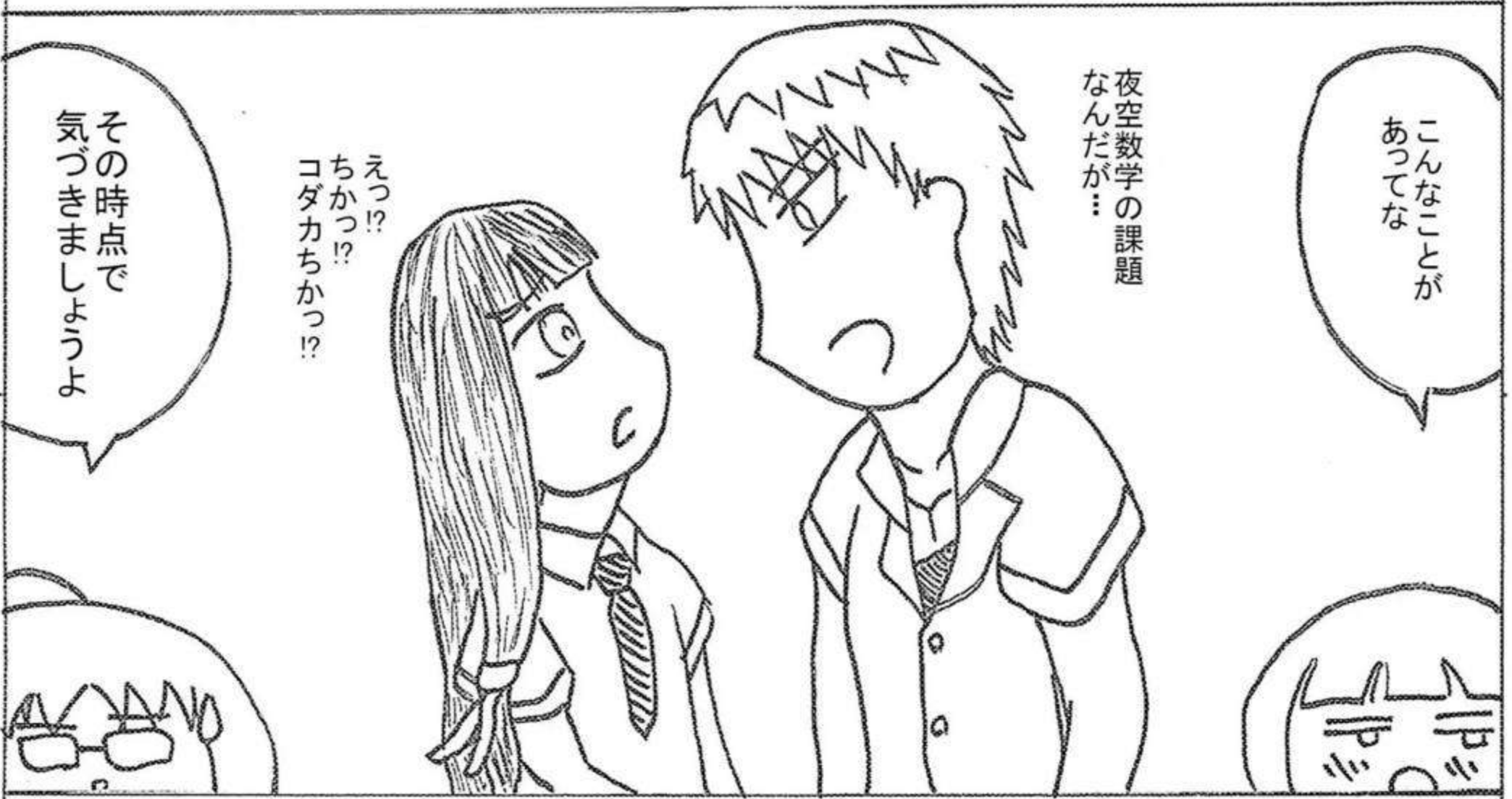
お前はホントに  
ろくでもないな

それでできたのが  
人との距離感を  
あいまいにする薬です

なんて才能の  
無駄使いだ

ん？ホレ薬では  
ないのか？

さすがに理科でも  
そこまでは…



つまり今なら  
うざがられることも  
やりたい放題ですよ！

意外と  
気にしてたんだな

それでは  
さっきの続きを!!

ヒャッホー！

あつ!?  
コラッ!!

アレ!?  
いません!?

帰ったんじゃないか?

おっ!!お前らも  
モン狩2やってんの?

逃げるか

そうですね

小鷹のカツアゲの  
噂がまた一つ増えた

私は良く見える目を持っている。

あの日からこの目は全てを映し続けた。

見たいものも、見たくないものも。

私の目に死角はない。

その日に起こることも、きつと見えていた。

でも、甘えた。甘えてしまった。

きつとこの目の所為じゃない。

でも私は。

×

×

「・・・メイちゃん」

耳元で囁く優しい声。

「・・・メイちゃん。今日は良いよね？」

彼のこの言葉は嫌いじゃない。

もう何度も断ったのに、それでも「今日もダメ？」とは

聞かない。

彼の優しさが私には痛かった。

「・・・ダメ」

私は優しくくない。

彼はいつも通り、少し肩を落として溜息をつく。

この仕草を私ははつきりと好きだった。私が持っているな

い真っ直ぐな感情表現。

彼は悲し気な笑みを浮かべ、私の髪をくしゃつと撫でる。

「落ち着いたらでいいよ」

目尻に溜まった涙をそつと彼が拭ってくれる。それでも、

その表情は曇らない。

本当に、私は最低だ。

×

×

「メイさん、話があるんだけど」

顔を上げると、そこには彼の顔があった。見覚えはある

けど、名前が出てこない。目を凝らす。

「ああ、・・・君。何？」

彼は少し驚いたような表情を浮かべ、破顔した。

「覚えててくれたんだ」

うん、まあ。と曖昧に答える。真っ直ぐな視線が眩しい。

「暫く学校休んでたから心配したよ」

首を傾げながら目を凝らす。

「ああ、話だけど……、ここじゃアレだから。次のコマ、講義ある？」

休講だけど、と告げると「じゃあ」と手を握ってくる。手から伝わる体温を感じながら、目を凝らす。

「付き合って下さい」

その言葉は見えていた。

小さくかぶりを振る。

「じゃ、友達からで」

その言葉で、目を伏せた。

その先は見たくなかった。

肺の空気を吐き出して、もう一度吸って。

彼の手を握った。

遠く届く衝動だけが、早鐘を鳴らした。

夕焼けをバックに笑う私と笑う彼。

その光景だけが瞼の裏に焼き付いて離れない。

×

×

9回目のコール音の後、もう1回と思ったところで彼が

電話を取る。

「今夜、会える？」

勿論とは彼の声。

「今夜は帰らなくて良いから」

暫しの静寂。

「……良いの？」

彼の嬉しそうな声に心が痛む。

×

×

「ハア、ハア」

僕は走る。

真っ白よりはやや靄のかかった真珠色の壁。

無機質な廊下、を僕は走る。

時折、明滅を繰り返す蛍光灯はやや青みがかっている。

生気のない廊下を、僕は走る。

彼女の元へ、僕は走る。

どうしても伝えなきゃならないことがある。

遠く、そこだけが闇で塗り固めたように黒い扉が見える。

僕は扉に手をかけ、そして。

×

×

シャワーが弾ける音が遠く聴こえる。

一人で包まれるシーツが体を冷やす。

鼓動は静まらない。

ドアの軋む音。水気の混じった足音。

浅くシーツが揺れ、彼が入ってくる。

「・・・無理してない？」

「無理してたのは君でしょ？」

鈍い笑いが起こる。

鼓動は静まらない。

口付けを交わす。

何度目かの口付けはいつもとは違う味がした。

彼の鼓動が伝わる。

彼の唇が首から肩へ。

自然と体が弓なりに反る。

羽織ったバスローブの胸元が乱れた。

彼の手が太ももを撫でる。

もう一度、口付け。

呼気が荒い。

彼がバスローブに手をかけ、そこで止まる。

「本当に・・・」

彼の言葉を唇で塞ぐ。

「触ってみて」

彼の手を秘所へ導く。

そこはもう溢れている。

私がそれを断っていた理由を彼は知らない。

彼の頬が緩み、手に入った力が抜けてゆく。

「じゃあ」

失礼します、と彼。鼓動は静まらない。

バスローブにかけた手に力が入り、私はそっと目を閉じ

る。

そこで、天地が逆転した。

×

×

「実験は失敗です！マッドちゃん！」

部屋に飛び込むと、彼女はソファで船を漕いでいるところだった。

「……え？何ですかあ？」

彼女は目を擦りながら、ソファの前にあるテーブルの上をぺたぺたと手探る。

端っこの方に置かれている牛乳びんの底のようなレンズをした眼鏡を手渡すと、僕はモニターの電源を入れる。

「んう。あれはメイさんと彼氏さんですねえ」

小さい手足を伸ばしながらレンズ越しにモニターを覗く彼女。

「はうっ！あの二人何してるんですか、枕投げですか！？」

モニターの中では二人の男女が半裸で枕をお互いに叩きつける光景が流れている。

「実は、かくかくしかじかで」

「まるまるうまうまなんですかあ」

事態を把握した彼女が肩を落とす。

「メイさんには千里眼を移植して未来が見えるようにしてあげたのに、何で喧嘩なんかしてるんですかあ」

「まあ、普通彼女の乳首に目玉が付いてたら悲鳴くらいあげるでしょうね」

「はあ、なるほど、とアホ毛を逆立てながら彼女。

「はう、また失敗ですう」

「四角の視覚に死角はない作戦。失敗ですね」

モニターの中では「君の全てが好きだって言ったじゃない！」だの罵詈雑言が飛んでいる。

メイさんもただの被害者だ。乳首に目玉を植えつけるなんて、うっかりというレベルを超えている。

でも、まあ仕方ない。ちらりと隣で滝のような涙を流す女の子を見やる。

「だって彼女の名は、ドジっ娘マッドサイエンティスト・マッドちゃんだから！」

ドジっ娘マッドサイエンティスト・マッドちゃん

了



# あとがき

トドロです。

この本をお手にとって頂きありがとうございます。

なんやかんやで今回で3度目の幸村本になりますが、  
話の練り込みが足りなさすぎました…ぐぬぬ…

来年もちよこちよこイベントに参加しつつ  
気の向くままに色々描いていきますので  
よろしければまた手にとってやって下さい。

それではよいお年を

尾カマ

べーよ。ミサワとはがないでコラしよーと思ったけど全くでねーわあ。  
とりあえず米兵殴りに行って来ます！

赤目玉です。

今回オリジナルに挑戦しようとしたのですが、ご覧の有り様です。  
次こそは何とかします。

魔装機神2を予約しました。  
SFCの魔装機神は個人的にライブアライブに匹敵する神ゲーだったので楽しみです。  
多分ないでしょうが、リカルドの活躍に期待しています。

■奥付

「幸村は執事服でもかわいい」

発行:産地直送マグロ団

発行日:2011/12/31 コミックマーケット81

印刷:PICO 様

special thanks;中落ち

ブログサイト:

<http://maguronotudo.cocolog-nifty.com/blog/>

無断での複製・転載することを禁じます。  
(インターネット含む)

Sanchi chokuso

産地直送  
マグロ

maguro dang!!